

電波政策ビジョンの策定に向けた検討課題

1 新しい電波利用の姿

【論点】

(1) わが国における電波利用の将来

- ・わが国においては、ワイヤレスブロードバンドが普及進展しており、また、環境把握・道路交通・医療介護などさまざまな分野における電波利用が進展している。これら電波利用は、将来どのように発展していくと考えられるか。新たな電波利用としてどのようなものが想定されるか。
- ・将来の電波利用の全体像をどのように考えていくことが適当であるか。また、その実現に向けた課題は何か。

(2) 2020年以降の新たな移動通信システム

- ・超高速のワイヤレスブロードバンドが3000万加入を超え、移動通信トラフィックは毎年1.7倍程度の増大が続いているが、今後どのように利用が進展していくと考えられるか。
- ・2015年頃に第4世代移動通信システム(LTE-Advanced)の実用化が見込まれているが、2020年以降の新たな移動通信システムとしてどのようなものが想定されるか。また、その実現に向けた課題は何か。

(3) さまざまな分野における新たな電波利用

- ・次世代ITSの実現に向けて道路交通の分野でどのような電波利用の進展が想定されるか。
- ・M2M、各種センサーネットワーク、RFIDなどによりどのような電波利用の進展が想定されるか。
- ・2020年東京オリンピック・パラリンピック開催に向けてどのような電波利用の進展が想定・期待されるか。
- ・これらの実現に向けた課題は何か。

電波政策ビジョンの策定に向けた検討課題

2 新しい電波利用の実現に向けた目標設定と実現方策

【論点】

(1) 新たな周波数割当ての目標

- ・現在、「ワイヤレスブロードバンド実現に向けた周波数再編アクションプラン」(2010年11月策定)に基づき、2015年までに新たに300MHz幅、2020年までに新たに1500MHz幅の周波数を確保することを目標としているが、この目標水準についてどのように考えるか。

(2) 周波数利用のモニタリングと周波数再編の推進

- ・現在も電波の利用状況調査を実施してPDCAサイクルにより周波数再編アクションプランや周波数割当て計画を策定し、周波数の再編を行っているが、更なる電波利用の高度化に向けて、どのようにモニタリングをすることが適切か、また、モニタリング結果をもとに周波数再編を推進するために、どのような手法が効果的か。
- ・周波数再編の一層の推進に向けて制度的に整備すべき措置はあるか。

(3) 電波有効利用のための方策

- ・新たな電波資源開発のためにどのような研究開発が期待されるか。
- ・ホワイトスペースの活用など周波数共用の高度化のための方策として、どのような取組が期待されるか。
- ・技術基準に適合していない無線機器の対策など、不適切な電波利用を防止するためにどのような対策が必要であるか。

電波政策ビジョンの策定に向けた検討課題

3 電波利用を支える産業の在り方

【論点】

(1) 電波利用を支える産業の在り方

- ・電波利用そのものを事業活動の中核に据えている産業、事業活動のために電波を利用している産業、今後電波利用によって高度化・効率化が期待される産業、これら電波を利用する産業を支える産業などについて、今後どのような発展が期待されるか。
- ・我が国の電波利用を支える産業の中でどの分野に国際的競争力や強みがあると考えられるか。
- ・国際的競争力や強みを活かすために、どのように取り組んでいくべきか。

(2) 電波利用を支える人材の育成

- ・我が国における電波利用の担い手の育成をどのように進めていくことが適切か。